

平成23年 成人式

おめでとう20歳

70人が大人の仲間入り



平成23年成人式が、1月2日砂美地来館において開催され、色艶やかな振袖や羽織袴、スーツに身を包み70名の新成人が式典に出席しました。

オープニングを飾ったのは、MKGバンド（川畑充勇さん・吉田和晃さん）。自分たちの島に対する想いを綴った歌で、晴れの門出を迎えた新成人のみなさんにエールを送りました。

式典では、与論町出身の板橋区立板橋第三中学校長の竹下賢氏が「新成人者への期待」として講演。「与論の人の一番の武器は『根性』これは両親や先祖から受け継がれ、DNAに刻み込まれています。苦難に出くわした時は、この与論のDNAを思い出して下さい。」と新成人を激励しました。

新成人を代表して加藤翔さんは、「与論町に恩返しするためにも今後大学で様々なことを学び、将来は愛する与論の発展に貢献できる人材になれるよう日々努力していきたい。」と力強く誓いを述べました。

また、成人を記念して、山教育委員長から記念品を受け取った若松千晃さんは、「沢山の友達に支えられて今日を迎えることができました。そのことに感謝し、これからはひとりの大人として様々なことを吸収していきたい。」と感謝の気持ちを述べました。

式典後、新成人のみなさんは、記念写真を撮ったり、賑やかに話したりと、友人たちとの久しぶりの再会に笑顔を見せていました。

新成人者抱負

新成人代表 加藤 翔

みなさん、新年明けましておめでとうございます。

本日はお忙しい中、私たちの成人式にご臨席いただきましてご来賓のみなさまをはじめ、ご来場のみなさま、また私たちのために盛大な式典を催していただきました与論町ならびに教育委員会のみなさま、誠にありがとうございます。

さて、私はこの与論町で楽しいことも苦しいことも、たくさんの経験をしました。これらの経験は、今日までお世話になった方々や、共に過ごした同級生たちがいたからこそできたと思っております。

本日成人になった同級生とは少なくとも中学からの長い付き合いです。中学・高校とメンバーがほぼ変わらず過ごし、学校行事や私生活を通して、とても強い絆を得ることができました。これは与論町で暮らしていたからこそ得られたもので、他の地域では決して得ることができなかったと思っております。私はこの繋がりを今後とも続けていきたいと思っております。具体的には年末年始などと論に帰ってきた時にみんなで集まって何かしたいです。酒飲みでもスポーツ大会でもなんでもいいので、1年に1回はみんなで集まり、そして30歳代、40歳代と一生生涯繋がりをもち続けたいと思っております。

また、昨年の春から夏にかけて宮崎県を中心に口蹄疫が広まり大変な社会現象を起こしました。宮崎県では相当な数の家畜が処分され、他県では飛行場や港などに消毒薬を

設置するなど口蹄疫の感染を防止する努力をしていました。この与論でも影響がありました。

私は現在、大学で家畜の飼料学や繁殖学について学んでいます。ニューズなどから宮崎県の現状や畜産農家の方々の心境を知り、飼料学や繁殖学のほかにも家畜の病気についても学習していかなくてはいけないと思っております。

さらに、私は中学・高校と与論でゆんぬエイサーを習っていました。現在もエイサーを学ぶため沖縄でエイサーを続けています。

沖縄のエイサーは伝統文化であり、地域の青年や高校生が中心となり行っています。私はこの2年、沖縄でエイサーを学ぶことを通して伝統文化の大切さや地域社会との関わりについて様々なことを学ぶことができました。

私は恥ずかしながら、昨年初めて十五夜踊りを最初から最後まで拝見しました。十五夜踊りは与論を代表する重要な伝統文化です。

私は十五夜踊りを拝見して、これからもとぎれることなく若い者たちが受け継いで続けていかなくてはいけないと思っております。

最後に、私事になりますが、私の両親は東京出身で与論の魅力に惹かれて住み始めた、いわゆる「Iターン組」です。私はその血を強く引き継いでいるようで、将来は与論に戻り仕事をしたいと思っております。

私の原点であり同級生との絆や自然の良さなど、様々なことを学び、得ることができた与論町に恩返しするために今後大学で様々なことを学び、将来は愛する与論の発展に貢献できる人材になれるよう、日々努力していきたいと思っております。

